

筋痛性脳脊髄炎・慢性疲労症候群

コロナ後遺症

高確率で発症か

新型コロナウイルスに感染し、後遺症に悩む人は、筋痛性脳脊髄炎・慢性疲労症候群（ME/CFS）を高確率で発症する可能性があると国内外の専門家による研究で明らかになっています。これをふまえ、NPO法人「筋痛性脳脊髄炎の会」が、新型コロナの「診療の手引き」（厚生労働省作成）改訂に際し、こうした情報を反映するよう求めています。（田中真理）

ME/CFSは、WHO
(世界保健機関)で神経系
疾患と分類されている難病
です。歴史的にウイルス疾
患の流行後に多発するとき
れ、ウイルス感染後疲労症
候群とも呼ばれています。

国内の患者は推定で約10万
人。脳と中枢神経に影響を
及ぼす病気で、約3割が寝
たきりなど重症患者（厚
労省調査）です。

睡眠や休息で改善しない
強い疲労感や脱力感を主訴
とする症状が長期間にわた
り、日常生活を送ることが
難しくなります。こうした
実態が明らかとなつても、
ME/CFSは国の難病対

象疾患ではありません。

生するとしてこらした情

同会は、今年10月に厚労
省が発表した新型コロナの
「診療の手引き」別冊の「罹

報を国が責任をもって提供
するよう求めています。

当該者の一人である篠原

篠原（らか）後症状のマニ
ジメント」第2版で、コロ
ナを契機にME/CFSを

発症する可能性や、複職困難な患者への労災認定のための診断書の必要性が明記されていないことを指摘。今後も新たな患者が発

FPSを発症する患者がい

ます。早期に診断が下りる

よう、研究の体制を整える

必要があります」と話しました。

「治療法なく先見えず」

ME/CFSは、WHO
(世界保健機関)で神経系
疾患と分類されている難病
です。歴史的にウイルス疾
患の流行後に多発するとき
れ、ウイルス感染後疲労症
候群とも呼ばれています。

筋痛性脳脊髄炎の会は新
型コロナウイルスの感染拡
大後、2度にわたりアンケ

トを実施。直近の202
1年の調査では、コロナ感
染または感染が疑われ、P

CR検査の有無にかかわら
ず、ME/CFSに似た症

状が続いている人を対象に
141人から回答を得まし
た。

回答した人の中、「医師
からME/CFSと診断さ
れた人は29人、医師からM
E/CFSの疑いと診断さ
れた人が37人、診断を受け
ていない人が71人で、5人

運動ができる、「すぐ疲れ
る」が89・4%に上り、社
会生活や日常生活が送れな
い状況が75%に及んでいた。
アンケートには、「給料

を下げられ生産性で病院に
行けない。発熱、全身の痛
みと耐えがたい苦痛でもう

限界」「精神的なものと診
断され、病院に行くのもお

づくつだ」「家事や身の回
りのことは最低限のレベル
でやっている。検査をして

も結果が出ない。病名もつ
かず、治療法もなく先が見
えない」など患者の声が多
数寄せられています。



オンラインで会見した筋痛性脳脊髄炎の会 患者団体 患者団体

炎の会の様子(写真:11月21日)